

Abhängiges Heft  
zur

Vegetation und  
Landschaft Japans

1979. 5.

The Yokohama Phytosociological Society  
Yokohama / Japan

## INHALT

1-2	A. Miyawaki	Karten 1, 2
3-4	S. Nakanishi and T. Hattori	Tables 5, 6
5	S. Itow	Table 1
6-7	G. Toyohara	Tables 1, 2
8	K. Saito	Table 1
9	T. Kashimura	Table 1
10-11	S. Okuda	Tab. 1, 2
12	Y. Sasaki	Tab. 1
13-14	K. Ohno	Tab. 1, 2
15	H. Makita, T. Miyagi, O. Miura and T. Kikuchi	Table 1
16	T. Hokusima	Table 1
17-20	M. Minamikawa	Tables 3, 4, 5, 6
21	K. Suzuki	Table 5
22-26	M. Simoda and H. Suzuki	Tables 1, 2, 3, 4, 5
27-29	K. Fujiwara	Tables 1, 2, 3, 4, 5
30	Y. Hada	Table 2
31	T. Seki	Tabla 1
32	A. Kameyama	Tab. 6
33-40	K. Kobayashi, M. Takeda and M. Nagai	Figs. 2, 3, 4, 5, 8, 9, 10, 12
41-42	K. Takeuchi and T. Shinzato	Tab. 2, 3

## 現存植生図とは……………

我々が現地で直接眼で見、手で触れることのできる植生が、現存植生（actual vegetation）と呼ばれる。大地を被い、一見無秩序に生育しているように見える植物の集り——植生——に単位性をもたせるときに、それを植物群落（plant community）という。植物社会学的には種の組み合わせ（species combination）を基礎として群落単位が決定される。群集（association）を基礎単位として、群団（alliance）、オーダー（order）、クラス（class）へと順次上級単位にまとめられる。現地における数多くの植生調査資料を群落組成表の比較検討によって、科学一般に用いられる抽象化の手続をふんで得られた群落単位を地図上に描いたものが植生図と呼ばれる。

現存植生の具体的な配分を地図上に描いた現存植生図（actual vegetation map）は、現在における植物群落の実際の配分図である。したがって、現時点における科学的なdocumentであるばかりでなく、植生を指標とした、生命集団の側からの総合的な環境、すなわち環境質（quality of environment）の変化の具体的な現状診断図の役割も果たす。

日本列島のように古くから文化が発達しており、さらに最近国土開発や産業開発、都市化の進んでいるところでは、現存植生は、自然環境に様々な人為的影響が加わって、一部の残されている自然植生から種々の代償植生まできわめて複雑に錯綜している。したがって、小縮尺の現存植生図化は、きわめて困難であった。

この“日本の現存植生図”は、現地で得られた各植生単位をできるだけまとめて、上級単位や複合単位として描かれた。現時点における日本の国土の緑の現状が、植生の質の違いを通して具体的に提示された資料である。同時に“日本の潜在自然植生図”（上巻 p.147 参照）と比較することによって、現代における日本の植物的自然の変貌の実態が概観できるはずである。